

氏名	戸田洋伸
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5279号
学位授与の日付	平成28年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Clinical characteristics of responders to treatment with tolvaptan in patients with acute decompensated heart failure: Importance of preserved kidney size (急性非代償性心不全に対するトルバプタン治療レスポonderの特徴：腎臓サイズ維持の重要性)
--------	--

論文審査委員	教授 和田 淳 教授 金澤 右 教授 大月 審一
--------	--------------------------

学位論文内容の要旨

バゾプレシン V2 受容体拮抗薬であるトルバプタンはうっ血性心不全に対する有効性が証明されているが、その投与効果は症例より様々であり、トルバプタン投与後の心不全改善に関する予測因子の検討を行った。心不全改善の定義として、①投与翌日の尿量の増加、②心不全症状の改善 (NYHA Class の改善)、③胸部レントゲンにおける心胸比の縮小、の3項目すべてを満たした症例をレスポonderと定義し、Tolvaptan Registry という多施設前向き観察研究に登録された症例を後ろ向きに解析を行った。レジストリに登録された症例の中で解析対象となった114例のうち、半数以上がレスポonderであった。レスポonderの症例はノンレスポonderと比較して、投与前の尿浸透圧、eGFR が有意に高値であり、CT で計測した腎径が有意に大きかった。多変量解析では、腎サイズが保たれていることが、レスポonderの独立した予測因子であることがわかった。腎サイズの測定は、腎機能を推測する一つの形態学的評価方法であり、心不全急性期においてトルバプタンの投与効果を予測する際に有用である可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

バゾプレシン V2 受容体拮抗薬であるトルバプタンはうっ血性心不全に対する有効性が明らかになっているがその効果は症例によって異なっている。本研究においては、①投与翌日の尿量の増加、②心不全症状の改善、③胸部レントゲンにおける心胸比の縮小の3つを満たすレスポonder症例と、ノンレスポonder症例を比較した。その結果レスポonderでは、尿浸透圧、eGFR が有意に高値であり、CT で計測した腎長径が有意に大きかった。多変量解析では腎サイズがレスポonderの独立した予知因子であった。

本研究はトルバプタンの投与効果を予測する手段として腎サイズが有用であることを明らかにした。よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。